8　違いがわかる？　知ってるようで説明が難しい問題

知ってるようで難しい“歴史の問題”

名前（村上浩一）

□□□一、小学生への説明として

□□

□教師たるもの、小学生へわかる説明ができねばならない。言葉のみで大人は理解できるとしても、小学生にはそういうわけにはいかない。小学生に理解できれば、大人だって実感として内容が理解できるであろう。では、どうすれば小学生への説明がうまくいくか。ポイントは一つ、それは、具体性である。具体物が提示できれば一番いいし、それがなくても「例えば」や身近な話、エピソード等々を付け加えて説明できれば理解が深まっていくであろう。

□　□二、「参勤交代」

□教科書には、大名を1年おきに江戸へ来させ、行列数も幕府が決めることで、大名に負担をかけ、強い支配力を行使したと、簡単な説明があるだけである。しかし、これだけでは、不十分であろう。そこで、以下のような説明をしていきたい。

□まず、法律の根拠である。これは、3代将軍家光の時に出された「武家諸法度」によるもので、将軍が代わる毎に改正されていく。次に、語句の意味だが、大名が江戸に仕えに行くことを「参勤」といい、交代期に領地へ帰ることを総称して、「参勤交代」と呼んでいる。外様大名は毎年4月、譜代大名は毎年6月か8月の交代であった。

　では、どのような形で大名行列はなされていたのか、ということである。ここでは、安藤広重が著した「東海道五十三次」内の「日本橋」等々の浮世絵を提示したい。このような形で、諸国から江戸までを往復していたのだというのがイメージできるであろう。

　では、具体的に私の住んでいる熊本

県の肥後藩はどのように参勤交代を行っていたのか、という身近な問題である。細川氏一行は、ある年は熊本から小倉までの豊前街道を歩き、瀬戸内海を船で走行し、兵庫に上陸した後、東海道を江戸へ向かっている。しめて34日間の日程であった。帰りは、中山道から兵庫へ出て、瀬戸内海を船で走行し、大分に上陸した後、豊後街道を熊本へ向かっている。しめて40日間の日程である。今のお金に換算して、一億円以上を要したと言われている。

では、この参勤交代にどんな意味があったのか、である。まずはプラス点である。使用街道は水陸交通の整備がなされ、地域と江戸の情報交換ができた。使用される莫大な費用は、経済の活性化と文化交流に貢献したということができる。次に、マイナス点である。莫大な費用は諸大名の財政基盤を脅かし、逆にそれは年貢の増大となって一般庶民に跳ね返っていった。それは、一揆をも誘発させるものであり、大名にとっては大きな負担となっていった。□一方、一般的エピソードとして、次のようなこともあったようだ。例えば、本陣や休憩所では「自分が一番」として飲食等々で最上のものを命じる傍ら、命じられた方ではケチだからと手抜きをしたりしていたそうである。又、経費削減のため、恥も外聞も捨てて、寺の境内を利用したりもしていたようだ。

このように、絵画でイメージさせ、法律の根拠を示し、参勤交代の実態をエピソードや住んでいる県で検証して参勤交代の意味や功罪を説いてみた。

□□□三、**「新田開発」**□□□

新地」「鯨油開」等々の分類である。その他、「鮫鰊」「貝洲」「塩浜」「文政」等々の海や年号に関する面白い地名がたくさんある。これらを解読させていくことで、この周辺が「新田開発」の跡だということが実感として理解できるであろう。「潮止めの図」という絵画も当地には残されているので、利用すると干拓のイメージができるであろう。このように、地名で検証していくという説明方法がある。

□　四、「鎖国」□□□